

創立50周年記念 同窓会総会開催

母校の創立50周年記念と調を合わせ、同窓会記念総準備委員会が総力を挙げて進をはかつてきいた待望の会記念総会が昭和61年11月1日(日)母校法政一高(50年記念会館)2Fホールにて開催された。

今回は、同窓会記念総会集として、野村会長・馬場長の挨拶と青木総長の祝辞(要約)ならびに懇親会のナップ写真を掲載し記録にどめることとした。

記念総会及び懇親会の概要是次のとおりである。

当日は、法政一高馬場昌校長、法政大学青木宗也総務をはじめ、法政大学付属高校長、同窓会役員、PTA役員・現教職員の方々を来賓として迎え、また多数のO.B.集い、開会を前にして恩師長、同期生、クラスメートがぞそぞろ現のつながりのなかで懐しい会話をかねて方々でかわられ和やかな雰囲気をかもしていた。

記念総会第一部は、大石務委員長の司会で午前11時から開催された。

野村会長、馬場校長の挨拶につづき、青木総長、田中T.A.会長から祝辞が述べられ、母校及び同窓会の試練と発展の歴史に総会出席者全員が春時代を思い出していながら開催された。

統いて、記念会館に新設されたバイオオルガンの演奏

英語講師のV・C・セアル先生によつて披露され、記念総会に花を添える一幕となつた。第二部の懇親会は会場を体育馆に移し、華やかな雰囲気会で開催された。

はじめに前田記念総会準備委員長（副会長）から会員多数の出席のもと記念総会が盛大裡に行われたこと、また開催に至るまでの支援、協力に対する謝辞と開会の挨拶が述べられた。

引続いて、初代同窓会々長である林英男顧問の祝辞が述べられた後、野村会長、馬場校長による鏡開と、前同窓会々長倉沢豊丸顧問の音頭で、同窓会の益々の発展と、会員各位の健勝を祝して乾杯が行なわれた。

多くの同窓生が久しう振りに一同に会し、地元の三鷹斎士員、校長が賑やかに色どりを添えるなれば、会場のあちらこちらでグラスを片手にしばし時のつたのも忘れて歓談がかわされた。楽しい時間は過ぎてうちに閉会の時間がとなり、またの再会を約し自出度くお開きとなつた。大木副会長の閉会の挨拶の後、神林総務副委員長の力強いリードによつて校歌が齊唱され、創立50周年を飾る同窓会の行事がつがなく終了した。



野村会長挨拶

挨拶

半世紀の歳月は、短くもあり、長くもあり、平坦な道、厳しい山坂、酷暑、寒冷等決して楽な道程ではなかつたと思ひます。

そして50年を経た今日、厳しい道程を経て、法政大学の付属校として、自由で明るい、環境づくりのなかで「自主・自律」の校風の学校として、描きない社会的地位を得てまいりました。

私達、卒業生は、母校のこの様子を目の当たりに見て胸を張り、眼を輝かせて喜びと、誇りに満つております。

同窓会は、会員相互の親睦を図ることは勿論であります。が、母校の発展を心から願つております。昨年から母校と一緒にになって、50周年記念事業の推進実行の一端を担わせて戴いております。

そして、今日、50周年記念事業として、記念会館は立派に建築され、ニュージーランドのケルストン高校との国際交流も行われ、教養文化講座も開講されました。

更に、50周年記念事業の柱ともいえる「50周年記念式典、祝賀会」も去る10月1日に、この記念会館において、法政大学の吉木総長、武藏野市上屋市長他のご来賓をお迎えして盛大裡に挙行されました。

同窓会に、よしても、昨

昭和32年現在の吉祥寺に母校の新校舎が建設された頃から、同窓会再建の機運が高まり、現在、同窓会顧問の林英一は、戦中戦後の混亂、更には、母校も戦災により、資料も焼失してしまった。昭和16年に創立50周年記念金を提出、「同窓会総会」などを推進してまいりました。また、昭和61年度におきましても、昨年度に引続いて運営してまいりました。そこで、創立50周年を期に、本同窓会の歩んできた足あとを振りかえってみたいと思います。本同窓会は、昭和16年3月法政中学校同窓会(132名)法政大学商業学校同窓会(12名)3・4の新学制により、両校を合併して法政大学第1高等学校が設立され、翌24年3月新制高校の第1回卒業生を送り出しました。昭和16年に発足した同窓会は、戦後、母校も戦災により、資料も焼失してしまった。昭和32年現在の吉澤寺に母校の新校舎が建設された頃から、同窓会再建の機運が高まり、現在、同窓会顧問の林英一は、戦中戦後の混亂、更には、母校も戦災により、資料も焼失してしまった。昭和16年に創立50周年記念金を提出、「同窓会総会」などを推進してまいりました。また、昭和61年度におきましても、昨年度に引続いて運営してまいりました。そこで、創立50周年を期に、本同窓会の歩んできた足あとを振りかえってみたいと思います。

男氏が準備委員長となり、同氏並びに準備委員の並ならぬご尽力により旧中学・旧商業・高校を一本化した同窓会の組織が確立され、再登足の第一歩を踏み出した。こうしてスタートをきった再建同窓会は翌33年6月、第1回同窓会総会を法政大学富士見町校舎で開催、600余名の会員が参加し、再会を祝しました。

この総会で会長に商業1期の林英男氏、副会長に中学1期の中村雅明氏、商業1期の松本一磨氏が専任され就任いたしました。

そして、同窓会規約、同細則も制定され、組織面でも総務・組織・財務・名簿の各委員会を設定し、はじめて同窓会としての体容を整えるに至りました。

翌34年は委員総会をもつて総会にかえ、35年6月第3回総会は、第1回と同じく大学の富士見町校舎で開催されました。36年6月第4回総会は、はじめて会場を外部に移し東会館で開催いたしたところ800名に及ぶ会員の参加があり盛り上がりをみせました。第5回総会は、38年1月法政大学の校友会館で行い、同年6月高輪プリンスホテルで第6回の総会が盛大に行われました。

この席上、役員の交替が行われ、新しい路線を駆け終った林英男会長は、顧問に退き

会長には、副会長であった松本一磨氏が就任し、副会長には、中学1期の中村雅明氏、新しく、商業7期の齊藤英雄氏が就任して新陣容を編成しました。また、この年、総会の開催に合わせて第2回目の名簿が発刊されました。

こうして軌道に乗ったと思われた同窓会活動も再び中断の時代に入ってしまいました。

かくして14年の歳月は過ぎ去つたわけであります、が、同窓会活動再会の機運の盛り上がりと、役員諸氏の地道な努力の積み重ねで、52年6月はじめ、吉祥寺の母校の体育館で第7回総会が開催され1300余名の会員が参集いたしました。この総会で役員の改選が行われ、会長に中学1期倉沢豊丸氏、副会長には、中学1期中村雅明氏、商業7期齊藤英雄氏の両氏が再選され、新副会長に中学7・8期の井沢雄誠氏、不肖私の2人が新たに就任いたしました。

その後の活動状況で特筆すべきは会報の発行であります。54年6月には東急ゴルフデンボールにおいて第8回の総会が開かれ700名の出席を得ました。

このようにして再スタートした同窓会活動は、その後も順調に実績を重ね、昭和58年6月吉祥寺の母校において第10回の総会が開催され新陣容でのスタッフにバトンタッチすることとなりました。

新会長には、不肖私が就任いたし、副会長には、中学1期大木興氏の再任、商業2期上田三代治氏、中学5期前田賢文氏、高校8期岩村元雄氏の諸氏が新任されました。新スタッフが当面したのは翌59年3月、母校野球部が甲子園春の選抜高校野球大会に24年振りに選ばれ、その支援活動であります。

幸いに、役員、クラス委員のご努力、会員のご協力による盛り上がりが実を結び、募金活動も当初目標の倍近い1453万円を達成、1700人のご協力を得ることが出来ました。

つづいて夏にも23年振りの西東京代表として予選を勝ち抜き、春・夏連続出場の快挙となりました。

このときは、西東京代表と決定してから甲子園大会まで時間がなく、同窓会の募金活動も春のようにはいきませんでしたが、テレビ、新聞、ラジオから伝わる母校野球部の活躍に1、123人の会員から650万円の募金が寄せられ、学校行事に全面的に協力できることとは、同窓会としても画期的な快事であります。

また、今次の母校創立50周年記念事業の一環としての募金活動においても、各役員、クラス委員のご努力、会員のご協力を得て、当初の目標を上まわる1、000万円余を寄せて戴きました。3回にわ

たるこの募金に対し、会員各位の絶大なるご協力を戴きましたことをこの席をお借りいたし厚くお礼を申し上げます。以上、本同窓会の歩んできた道程の概要をお話し申し上げましたが、この道程は、会員相互の「親睦」という心の交流を基盤とした地道な活動の積み重ねであり、長い間でわたくて先輩役員諸氏が築いてきた足跡でもあります。

ここに先輩役員諸氏のご尽力に対し、衷心から敬意を表する次第でございます。

本日の総会におきましては、「50周年記念総会」として、「出席してよかったです」と会員の方々が心に残り喜んで戴けるよう学校の物心両面にわたる全面的なご協力を得て、諸般の計画をいたしました。学校のご援助に対しまして厚くお礼申し上げます。

従いまして通常総会の趣とは異なり、議事については、過般6月18日(水)四谷の主婦会館で行われましたグラス委員会の議事をもって、議事にかえることとするよう、同委員会で決定了承を得ましたので、皆様のご承認をお願い申し上げます。

1. 昭和60年度会計報告
2. 昭和61年度予算
3. 昭和61年度役員と任期
4. 昭和61年度の運営方針

につきましては、郵送してあります同窓会々報第12号(10月1日発刊)に掲載してあり

馬場名譽會長挨拶



ますのでご参考下さるようお願ひ申上げます。

うお願い申し上げます。

早々、こうした著名な学者、すぐれた卓見の士を戴、た

の楽しみにしておられました
が、昔くもこの3月、01歳

たるこの募金に対し、会員各位の絶大なるご協力を戴きましたことをこの席をお借りいたし厚くお礼を申し上げます。

ますのでご参考下さるようお願い申し上げます。
最後になりましたが、後刻この50周年記念会館をご覧戴き、懇親パーティーでは先生方を交じて昔語りなどごゆつくりご歓談下さいますよ

うお願い申し上げます。
母校創立50周年を期に、更
に母校の益々のご昌隆と、
発展を、またご来賓各位並び
に会員各位のご健勝と法政一
高同窓会の発展を祈念して、
挨拶いたします。

早々、こうした著名な学者、すぐれた卓見の士を戴いたことは、大変な名聲であります。初代校長ばかりではありません。当時の先生方を見ると、これまた、普通の学校ではなく、當時の先生方を見るに、とても考えられない、大学教授クラスの人々がゐるのです。この樂しみにしておられましたのが、惜しくもこの3月、101歳で亡くなられました。先生がまだ御元気な頃、よく自宅から歩いて学校にお出になつたことがあります。その時、たまたま錦織校長の思い出話とびれてこないがままです。そ

の楽しみにしておられました
が、惜しくもこの3月、101歳
で亡くなられました。先生が
まだ、御元気な頃、よく自宅
から歩いて学校にお出になつ
たことがあります。その時、
たまたま錦織校長の思い出話
をされたことがあります。そ
れは、以下のようのことでした
た。ある日、学校が終わって
から土居先生が帰宅の途中、
たまたま、どこかへ行かれた
錦織校長が、学校へ戻つて来
る姿をはるか手前から見られ
たことがあります。そこで、
錦織校長が下を向いて
歩きながら、いかにも思い惱
んでいる風に見えたので、声
をかけ「一体、どうなつた
のか」と聞かれたそうです。
すると、錦織校長は、一人の
生徒の名を挙げ、その非行が
おさまらないので、「どうし
たらよいかと考えていたとこ
ろだ」と言われたそうです。
たつた一人の生徒のために、
「こうしようか、ああしよう
か」と真剣に考えあぐむ姿に、
土居先生は、思わず目頭が熱
くなったそうです。土居先生
も生徒思いでは人後に落ちぬ
方でした。今で言う「落ちこ
ぼれ」をつくらぬというのが
先生の信念でしたから、皆さ
んの中にも全員、「第一等賞」
を貰つたり、出来なくとも励
まされたりした記憶を持つて
おられる方があると思います。
卒業以来、亡くなられるまで
ずっと手紙のやりとりを欠か

昭和62年11月20日（金）

さなかつた第一回の卒業生の方もおります。この土居先生が思わず胸を熱くされたのでから、錦織校長の生徒思いは並みのものではなかったと思われます。錦織先生は、素行のおさまらない生徒を自宅に引き取って、本人自身の力で立ち直るよう、生活をともにされながら、温かく指導されておられたということです。これで更正しないものはおりません。このようなことは、実際になかなか出来ることではありません。まさに聖職意識に徹しておられたに違いありません。そして、自分自身ではそうした意識すらなくなつていたことでしょ。私の好きな禅の言葉に「一個 半個の説得」(一人の弟子を徹底して導く)ということがありますが、土居先生も、錦織先生も、本当の意味で人間教育に迫つておられたのだと思われます。

こうした温かい人間的な雰囲気の下で、生徒の中も、他の学校に見られるような、上級生が下級生を押えつけて威張り散らすというようなことはありませんでした。むしろ上級生が下級生の勉強の面倒を見ること今まで行われていました。

商業学校の有賀定三先生も、厳格な経済学者であるとともに、包容力の豊かな教育者として、生徒の中に大きな影響を与えるました。先生が亡くなつてしまい、まだ今こ

え子が集まって、鎌倉の瑞穂寺で法要を欠かしたことなどがありません。これもまた、希に見る師弟間の温かい関係とすべきでしょう。

こうした温かい師弟間の関係から、本校の卒業生は皆、坊ちゃん育ちのひよわな人間に成長したのでしょうか。うではありません。戦時下ではあります。谷吉蔵中学校長、本庄長正主任教諭の時代には、両校競て軍事教練に励み、軍事查問にはいつも「最優秀」の成績を収めました。

むしろ、この自由な人間的な雰囲気の下でこそ、不屈の精神、独立、自存の性格が形成されていったと思われます。

昭和20年5月25日の空襲によって、法政大学は中等部を失います。そして、本校は戦後間もなく、昭和21年9月、このまま咸野の地に移り、再生の時を迎えることになります。辛苦い困難な時代ではあります。しかし、活気溢れる再建が実現され、クラブ活動も発展を続けました。その伝統が一昨年の春夏連続出場をふくめて、4回の甲子園大会出場を見るようになりました。ちなみに、園出場32校ないし49校の日本校並んで、

差値では、上位・3位に入っていることを付け加えておきます。これは、「文武両道」において全国レベルにまで競争していることを示しています。

もちろん、今日の姿を見るまでは幾多の困難がありました。戦後、市ヶ谷からこちらへ移ってきた時には、机や椅子も満足に揃っておりませんでした。PTAの方や教職員が手弁当でグラントの王師探しにあるき回ったこともあります。生徒募集で困難に陥ったこともあります。「高校争奪戦」のあたりに直面したこともあります。

しかし、それらの困難を乗り越えてきました。どんなに苦しい時にも、その底にお互いに尊重し合うヒューマニズムと明るいコモアがありました。先生と生徒が一体となつて頑張る協調性が不屈の精神ありました。

そうした試練を通じて、自分達の頭で考え、自分達の力で解決を図る「自主・自律」の気風を育ててきました。こうして、我校の誇るべき風景となり、伝統が築かれて来たのです。

我校の誇るべき伝統を一言でいえば、それは、「自由人間的雰囲気の下での、自主的・自律的な気風」であると言ふことが出来ると思ふと、

ところで、このような伝統の中、よほどこれまでにござつてゐます。

か。それは、先程も触れましたごとく学校創立以来、50年の間、この学校に職を捧げた教職員、この学校を築立った行つた一万余人の卒業生の全てであります。一人一人の皆さん方であります。その時の教職員、生徒は、それまでの伝統を受け継ぎ、それによって育てられたながら、同時に時代の進展の中で、それまでの伝統に新たな要素を付け加えて、大きな流れを形成して来たわけであります。そこに おお 愛する母校

して、その中に、教職員、T.A.、P.T.A.、O.B会と一緒に、同窓会にも加わって貢献しました。したがって、今回50周年は、皆さん方をみて、文字どおり、学校関係全ての力を結集して進められて来たといつても、決して口言ではありません。今日、お話をした「記念事業」のはとどを成し遂げることが出来たのも、まったく皆さんのお蔭であります。

ここに改めて、高い席からであります。が、厚く御礼申上げます。

学校は、何よりも生徒を育て、その人間的な成長を必ず場であります。我校の場には、法政大学の付属校として、「自主的・自律的人間開拓」を今後とも高く掲げて、いつそう前進していく所存あります。しかしながら、う生徒を集めて教育するとう狭い枠に留まっていたのは、将来の発展はありません。現実には、我校は、法人法政大学の一環として、この武野の地にあり、1400名の中・高校生と、その倍のP.A.の父母があり、背後に二千名の卒業生がおります。今日、ここに御見えになつてゐる大学の総長にもよく面を見て貢つて、この武藏野の地にしっかりと位置付き、

名の卒業生、その卒業生の娘御さんにも支えられていく必要があります。そうした社会的な諸関係を大切にしていくことが、今後、いっそ望まれていくことだと思います。今後とも、学校と同窓会との協力を進一步進めたいと思います。

法政大学第一中・高等学校50年の歴史は、平坦な道ではない苦難の連続でした。その発展の歴史を辿ってきましたのは、その時々の教職員、在校生の皆さんの方と、もちろん一つ卒業生の皆さんの方が大きく作用しているのではないのだらうかと思います。

直接的な働きかけはないものの同窓会があるといふ現存するものの中でも大きな励ましになります、影に隠れた様々な形での協力や声援が、教職員への勇気づけとなり、それが苦難のなかで立ち直り、更に発展する原動力ではなかつたな

昭和44年だと記憶しておりますが1年ほどこの一中・高の校長事務取扱いをいたしました。中学・高校とも生徒が充分集まらないという、まさに苦難の時代でした。

このような低迷の時代ではありました、その時から体育馆の建設が問題になりました。当時は資金も無く生徒も少ない上に独立採算性ということで、なかなか資金の目処がたたず、つまるところ募金は協力していただきことになり、あの体育馆が建ったのでござります。

こういう同窓会の皆様方の動きというものが苦難の時代でありましても教職員に対しても、非常に力強い励ましたるものでござります。

今日、正に第一中高は高い評価を受けております。一応の指標である偏差値は大変に高い。

大学としては、付属校を大學教育の中心になつてもらつたために重要な役割を果してもうわなければならぬ位置



青木總長祝辭(要約)

年だと記憶しております。前ほどこの「一中・高」も、子・高校とも生徒が少ないと、まさに低迷時代でした。が、その時から体操が問題になりましては資金も無く生徒も独立採算性というなかなか資金の自処つまるところ募金をいたぐことに、体育館が建ったのであります。今窓会の皆様方の苦難の時代でも教職員に対しに力強い励ましになります。正に第一中・高は高であります。一である偏差値は大変にしては、付属校を中心になつてもらおう重要な役割を果してもればならないと位置づけて、私の挨拶をうなぎました。



パイプオルガン演奏
(V.C.セアル先生・記念総会)



懇親会開会の挨拶
(前田記念総会準備委員長)



50年の歴史に感もあらたな
出席者の皆さん(記念総会)



乾杯
(同窓会前会長 倉沢豊丸氏)



野村会長、馬場校長による鏡開



祝辞
(同総会初代会長 林英男氏)



恩師を囲んでハイポーズ



盛り上がる懇親風景

※六面七段から続く
づけしている次第です。
私立大学といふのは、それ
ぞ建学の精神なり学風を
もつております。わが法政大
学は「自由と進歩」の学風が
あり、先人達が試行錯誤を繰
り返しながら守り育ててくれ
ました。

この学風にもとづいて特色
のある人材を教育し、社会の
進歩、人類の幸福の増進のた
めに指導的役割を果す、そう
いう人材をつくるのが大学の
任務と心得ており、また私の
念願でございます。

付属中・高で一貫教育を受
けながら「自由と進歩」の学
風を身につけた特色的ある人
材が大学にきてもらいたいと
願っている次第です。

また、偏差値によつて輪切
りにされるいまの大學生入試制
度の弊害に災いされないで入
学する学生は大変に貴重であ
ります。現に法政大学でも指
定校制度による推薦入学を認
めており、付属校からの進学
者を含むると入学者の約4割
になります。追跡調査でも
4年間の成績は試験入学者よ
りも伸びております。

このようなことがら付属校
全体、特に第一中・高の今後
のいよいよの発展を心から願
い、皆様方のご指導、ご援助、
ご声援をお願い申し上げる次
第でございます。

第2回付属高校同窓会

役員懇親会開催

副会長 岩 村 元 雄

昭和62年2月1日(土)午後6時30分より武藏小杉駅前

の小杉会館8階芙蓉亭に於て、法政大学付属高校(法政一高、法政二高、法政女子高、久席法政第一工業高)の同窓会役員の懇親会が開催されました。

昭和60年11月に引き続いだ第2回目という事で二高が幹事当番校となり、藤沢秀雄事務局長の司会で各校同窓会の運営状況等が報告され、今後全般の発展を願って相互に大いに協力し合っていくことを申し合せました。

各校の報告大要は次の通りです。

一高 野村会長「昨年一高は創立50周年を迎え同窓会も11月16日記念総会を開催し、申し上げましたところ、ご多忙にもかかわらずご来駆いた

だき、過分なお祝まで頂きました。誠にありがとうございました。この席をお借りいたしまして改めて御礼申し上げる次第でございます。

50周年の記念行事には母校は勿論のこと、同窓会PTAが協力して大成功裡に收めることができました。1・50周年記念募金の建設

3.教養文化講座の開講により

回は二高が幹事で前回同様にご案内状を差上げたが一工業

高が誰も参加されなかつたのは残念だ。二高の同窓会員は現在24000余名、高校卒業時に入会金を3千円徴収している。昨年4月二中が開校したことなどで名門校として注目を浴びております。かなり偏

員の慰靈祭、6.記念式典等が主な行事でした。現在同窓会員は16000余名、同窓会の歩み、名簿、会報等の発刊

によつて会員の相互扶助の実をあげるべく努力している。

員は16000余名、同窓会

の地域社会との密着、4.ケルヌ

トン高校との交流をはじめと

して国際交流の輪を広げて国際社会人の育成、5.物故教職員の懇親会が開催されました。

昭和60年11月に引き続いだ第2回目といつう事で二高が幹事当番校となり、藤沢秀雄事務局長の司会で各校同窓会の運

営状況等が報告され、今後全般の発展を願って相互に大いに協力し合っていくことを申し合せました。

各校の報告大要は次の通りです。



二高 池谷会長「高50周年記念総会に初めてお邪魔しました。素晴らしい記念会館で素晴らしい記念総会だったと感激いたしております。

女子高の同窓会員は現在10000余名。毎年母校のオレンジ祭と同時に総会を開催していますが最近会員の参集が悪く、執行部としては頭を痛めているところです。入会金は今年の3月から2千円を3千円にアップする予定です。

昭和64年には40周年を迎えるので二高と同様いろいろアドバイスをお願いしたい。

また次回は女子高が幹事なので日時、場所等ご希望があればお申し入れ下さい。

今日の出席者(敬称略)

(一高)野村光一、大木興、安、田畠彰太郎、元木恒雄

上田三代治、前田賢文、岩村
(二高)池谷菊雄、守谷樹壱、泉豊子

元雄、枝、鈴木敦子、石崎良枝、和
宮崎一郎、藤沢秀雄、和田龍

江口智先生、(1組)齊藤
一男、上瀧昇、小倉耕之助、治、香西広、原武志、吉川景
田中耕作、猪俣正己、北沢清
明、福島明、明官木、尾本竜
介、佐藤利夫、川上喜雄、上

谷佳平、北村鉄五郎、原太郎、
杉山豊、林泰一郎、井上敬一、
村田宗隆、船山幸樹、島崎寿
出席者(敬称略)

江口智先生、(1組)齊藤

一男、上瀧昇、小倉耕之助、治、香西広、原武志、吉川景
田中耕作、猪俣正己、北沢清
明、福島明、明官木、尾本竜
介、佐藤利夫、川上喜雄、上

谷佳平、北村鉄五郎、原太郎、
杉山豊、林泰一郎、井上敬一、
村田宗隆、船山幸樹、島崎寿
田三代治 計32名
(上田三代治記)

入学50周年記念の集い

法商一六会

昭和62年度

教養文化講座の開講に当つて

校長 場 昌 平

昨年度は本校の創立50周年

を機に、この「教養文化講

座」も、その内容・規模とも

に思いきつて充実いたしました

。作家の松本清張先生を始め、5人の先生方に「教養文化講座顧問」をお願いし、酒井広先生の「話し方教室」を

始め、七つの講座を設けまし

た。いずれも受講生の熱心な

参加が得られたことは、喜ば

しいかぎりです。秋には新しく竣工された「記念会館」で

松本清張先生の「50周年記念講演」も行われました。また、

講座全体の運営も、「運営委員会」を中心に、まったく自

主的に進められて来たことは

素晴らしい経験でした。

今年度は、昨年度の講座が

引き続き開かれるとともに、新たに顧問の藤原てい先生も

講座の一つを受け持つて下さ

ることになり、また、いくつ

の講演会・演奏会も予定さ

れ、一層の充実が期待されま

す。従来の受講生と新しい受



旧商業2期、昭和16年12月卒業、法商一六年会入学50周年記念の集いが5月29日18時から銀座日航ホテルにおいて開催されました。

江口智先生がご出席のご返事をいただきながら、直前の22日に急

に性肝硬変で逝去されたことに

は、一同強い衝撃を受けた。

葬儀に参列した福島明君の

涙ながらの訃報を告げ、

一、小倉耕之助、岡田実、伊藤一の五君が弔問がありました。

藤原てい先生が朗読し、晩春の夜の

ことになり、また、いくつ

の講演会・演奏会も予定さ

れ、一層の充実が期待されま

す。従来の受講生と新しい受

出席者(敬称略)	江口智先生、(1組)齊藤	一、(2組)伊藤一、芳野東一
田中耕作、猪俣正己、北沢清	一男、上瀧昇、小倉耕之助、治、香西広、原武志、吉川景	明、福島明、明官木、尾本竜
谷佳平、北村鉄五郎、原太郎、 杉山豊、林泰一郎、井上敬一、 村田宗隆、船山幸樹、島崎寿	田中耕作、猪俣正己、北沢清 明、福島明、明官木、尾本竜 介、佐藤利夫、川上喜雄、上	田三代治 計32名 (上田三代治記)
江口智先生、(1組)齊藤	江口智先生、(1組)齊藤	江口智先生、(1組)齊藤
一男、上瀧昇、小倉耕之助、治、香西広、原武志、吉川景	一男、上瀧昇、小倉耕之助、治、香西広、原武志、吉川景	一男、上瀧昇、小倉耕之助、治、香西広、原武志、吉川景
田中耕作、猪俣正己、北沢清 明、福島明、明官木、尾本竜 介、佐藤利夫、川上喜雄、上	田中耕作、猪俣正己、北沢清 明、福島明、明官木、尾本竜 介、佐藤利夫、川上喜雄、上	田中耕作、猪俣正己、北沢清 明、福島明、明官木、尾本竜 介、佐藤利夫、川上喜雄、上
田三代治 計32名 (上田三代治記)	田三代治 計32名 (上田三代治記)	田三代治 計32名 (上田三代治記)

昭和61年度 収支決算書

(61.4.1~62.3.31)
法政大学第一高等学校同窓会

収入の部				
款項	予算額	決算額	差異	備考
繰越金	508,749	508,749	0	
会費	1,466,000	1,873,500	△ 407,500	
(イ) 入会費	694,000	692,000	2,000	@2,000×348
(ロ) 一般会費	347,000	346,000	1,000	@1,000×346
(ハ) 年会費	3000,000	678,000	△ 378,000	@1,000×675 @3,000×1
(ニ) その他会費	75,000	157,500	△ 82,500	
雑収入	50,000	7,691	42,309	
総入金	0	5,698,520	△ 5,698,500	
総入金	0	5,698,520	△ 5,698,500	
計	1,974,749	8,088,460	△ 6,113,711	

昭和61年度決算を終えて

副会長

大木

興

母校の創立50周年記念を行つて、昭和61年は母校の記念会館に於ける記念式典をはじめ、学校主催の様々な記念事業が華やかに行われました。それらはひとつひとつが学校

の歴史に長く残る意義あるものとして私達の記憶に新しいものであります。

同窓会におきましても昭和

60年の定期総会を1年延長し

て母校創立50周年記念総会と

して盛大に行わ

れました。参加者は600名を

超え、前田記念総会準備委員

長の熱意と周到な準備が功を

奏して大成功をおさめました。

この記念総会の結果が同窓

会の当期決算面にも顕著に表

われ、次期への繰越額として

は初めての数字を記録出来た

の話なのですが、この人は有

ります。今回はそれを紹介して

みましょう。それは300年程昔

に「ガリバーリ旅行記」を書い

たイギリスの小説家Swift

の話なのですが、この人は有

ります。今日はそれを紹介して

みましょう。それは300年程昔

に「ガリバーリ旅行記」を書い

たイギリスの小説家Swift

の話なのですが、この人は有

